

修士論文の内容要旨

【分 野】 統合保健看護科学

【題 名】

ボディイメージに乖離がある妊婦の妊娠期におけるセルフケア行動の特徴の検討
(Examination of characteristics of selfcare behavior during pregnancy of pregnant women with divergence in body image)

生命育成看護科学講座 桑田真衣

【目 的】妊娠中期における妊婦のボディイメージの乖離とセルフケア行動意図の特徴と関連を明らかにすることである。

【研究内容】総合病院及び産婦人科クリニックにおいて、妊娠中期の妊婦 57 名を対象に妊婦健康診査及び中期母親学級の助産師の話の後に、属性や回答時の理想のボディイメージ、セルフケア行動について無記名自記式質問紙調査を行った。ボディイメージは Tsuchiya et al.が作成した Figure rating scale (以下、FRS) in the sixth month of gestation を用いて、回答時はボディイメージのシルエットの下に記載されているボディイメージのシルエットに適した BMI (実際のボディイメージ) は消去した状態で使用した。また、妊娠中期の理想のボディイメージと実際のボディイメージとの乖離状況を確認し、1 つでもずれていた場合、乖離ありとした。妊娠期のセルフケア行動とは、「妊娠期の心身の変化に応じ、分娩や育児期の準備のために妊婦が実施することが望ましい日常生活及び健康管理上の行動」と定義し、眞鍋らが作成した妊娠期のセルフケア行動意図尺度を使用して評価した。妊娠期のセルフケア行動意図尺度は、「異常の予防・早期発見」「母親役割準備・分娩準備」「食生活」「日常生活動作への配慮」の 4 つの下位因子から構成され、点数が高いほどセルフケア行動をとろうとしていることを示す。本研究は大阪大学医学部附属病院の観察研究倫理審査委員会の承認(承認番号 19128)を得て実施した。

【結果】セルフケア行動意図尺度の点数を総合的にみると、痩せ思考群は有意にセルフケア行動低実施の人が多いことが分かった。また、因子ごとにみると「食生活」において、有意差が見られ($p=0.018$)、3 群間の中では、太りたい群と痩せ思考群の間に有意差がみられた($p=0.04$)。

【結論】妊娠中のボディイメージの乖離状況によって痩せ思考の妊婦はセルフケア行動を遂行しようとしていないことが示唆された。また、セルフケア行動の中でも「食生活」に違いがあることが分かり、痩せ思考の妊婦が「食生活」において太りたいと思っている妊婦よりもセルフケア行動を遂行しようとしていないことが示唆された。